

# 全風連だより

第3号

～全国民俗芸能「風流」保存・振興連合会～



写真は左から、「対馬の盆踊」、「野原八幡宮風流」(2,3,4 枚目)、「寒水の掛踊」

## ふりゅうおどり 風流踊とは

「風流踊」は、華やかな、人目を惹く、という「風流」の精神を体現し、衣裳や持ちものなどに趣向をこらし、歌や、笛・太鼓・鉦などの囃子に合わせて賑やかに踊る民俗芸能です。

地域の歴史や風土に応じ、広く親しまれている盆踊をはじめ、念仏踊や太鼓踊など、様々な姿で伝承されており、そこに込められた願いも除災や死者供養、豊作祈願、雨乞いなど多様ですが、安寧な暮らしを願う地域共同体によって囃し、踊られ、今日に継承されてきました。

風流踊には、地域の人々が世代を超えて関わっています。地域全体で伝承してきたことから、風流踊は地域社会の核ともなる役割を果たしてきました。特に災害の多い日本では、被災地域の復興の精神的な基盤ともなるなど、文化的な意味だけでなく、社会的な機能も有しています。

## 会長挨拶

令和3年度も引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、多くの人々が密集する可能性がある行事は中止や変更を余儀なくされ、私たち「風流」の保存会にとっても困難な年となりました。しかしながら、昨年度の会報誌第2号でも報告しましたように、オンライン配信や実施方法の見直し等により、実施に向けご尽力されている保存会の方々には大変励まされました。令和4年度はこの状況が改善され、是非とも各地で「風流」をはじめとする、民俗芸能が執り行われることを切に願っております。

さて、今年はいよいよ「風流踊」の審議が行われる年となりました。ここまで全風連が活動してくることができましたのは、思いを共にする正会員・特別会員の皆様のご協力の賜物でございます。登録の瞬間を皆様と迎えるべく、全風連としましても、より一層の連携強化に励んで参りたい所存です。今後ともご協力のほど、よろしくお願いいたします。

全国民俗芸能「風流」保存・振興連合会 会長 白川正樹(佐文綾子踊保存会長)

# 令和3年度活動

## 総会（書面表決）

本連合会の総会を5月に東京都で開催する予定で計画を進めていましたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止に鑑み、昨年度に続き、書面によるご審議に代えさせていただきました。

議案といたしました「令和2年度事業報告」、「令和2年度決算報告」、「役員改選」、「令和3年度活動方針（案）及び事業計画（案）」、「令和3年度会計予算（案）」について、すべて可決されました。ご協力ありがとうございました。

また、会員の皆様からは、会報誌「全風連だより」及び『民俗芸能「風流」』パンフレットのデータ配布に際し、A3を印刷できる印刷機を所有していないため、印刷物の送付を希望するとのご意見をいただきました。本件に対しましては、限られた財源を有効活用する観点より印刷物の配布困難であるものの、A4サイズのデータを送付するなどの対応をさせていただくことになりました。

なお、令和4年に予定されているユネスコ無形文化遺産登録に合わせまして、印刷しましたパンフレットを配布させていただく予定としておりますので、普及啓発活動等にご活用ください。

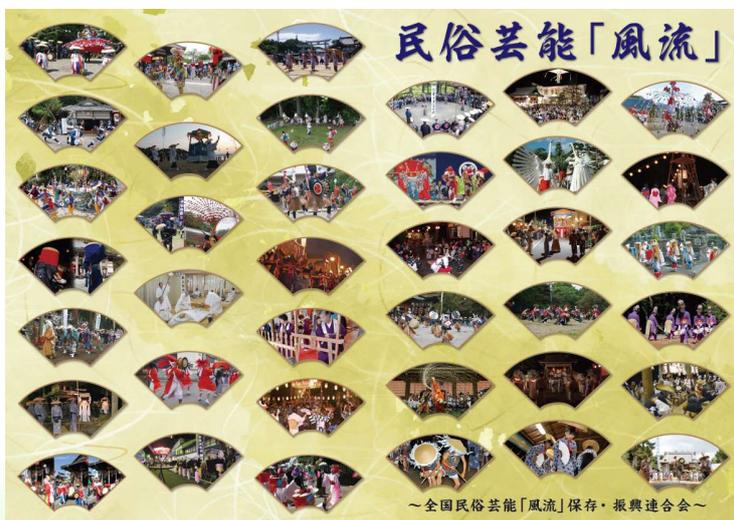
### 令和3年度 活動方針

1. 民俗芸能「風流」の保存継承においては、後継者の減少や高齢化が急激に進展しており、今後保存継承が困難になることから保存会同志が交流を通じて、課題の改善を図る。
2. 民俗芸能「風流」の保存・活用を図るため、調査研究を推進する。
3. 「風流踊」のユネスコ無形文化遺産登録に向けた更なる取り組みを行う。

## 本年度の活動

本年度の活動としては下記のとおりです。

- ・『民俗芸能「風流」』パンフレット更新  
令和2年度の新規加入団体の追加などの修正を加え、デジタルデータを配布。
- ・「第35回 国民文化祭 風流ごかせフェスタ」（宮崎県五ヶ瀬町）への協力  
残念ながら、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、中止となりました。
- ・広報誌『全風連だより』第3号を作成し、デジタルデータで配布（本誌）



『民俗芸能「風流」』パンフレット更新後の表紙

# 特集 ユネスコ無形文化遺産について

## ユネスコ無形文化遺産とは

### はじめに

令和3年3月末に民俗芸能「風流」が「風流踊(ふりゅうおどり)」として、ユネスコ無形文化遺産への提案書が我が国からユネスコ事務局に再提出され、令和4年11月28日～12月3日の第17回無形文化遺産保護条約政府間委員会(開催予定地:モロッコ)において、登録の審議・決定がなされる見込みとなりました。

ユネスコ無形文化遺産登録に向けた取組に対する、正会員・特別会員の皆様のご理解ご協力に大変深く感謝いたします。誠にありがとうございました。

本特集では改めまして、ユネスコ無形文化遺産に関してご報告させていただきます。今後の皆様の取組のご参考になりましたら幸いです。

### 条約の概要

ユネスコ無形文化遺産(代表一覧表)への登録については、平成15年(2003年)のユネスコ総会において採択された「無形文化遺産の保護に関する条約」において、定められています。

この条約は、社会の変容などに伴い、無形文化遺産に衰退や消滅などの脅威がもたらされるとの認識から、無形文化遺産の保護を目的としています。令和4年3月末時点で180か国が本条約を締約し、無形文化遺産の保護に努めております。

### ユネスコ無形文化遺産の登録状況(令和4年3月末時点)

世界全体の登録数530件(日本は22件)※

※代表一覧表の件数について記載。他に緊急保護一覧表(71件)、グッドプラクティス(29件)がある。日本は代表一覧表への登録のみ。

日本の登録されているユネスコ無形文化遺産については以下のとおり

登録年	名称
平成20年(2008年)	「能楽」、「人形浄瑠璃文楽」、「歌舞伎」
平成21年(2009年)	「雅楽」、「小千谷縮・越後上布」、「奥能登のあえのこと」、「早池峰神楽」、 「秋保の田植踊」、「チャッキラコ」、「大日堂舞楽」、「題目立」、「アイヌ古式舞踊」
平成22年(2010年)	「組踊」、「結城紬」
平成23年(2011年)	「壬生の花田植」、「佐陀神能」
平成24年(2012年)	「那智の田楽」
平成25年(2013年)	「和食;日本人の伝統的な食文化」
平成26年(2014年)	「和紙:日本の手漉和紙技術」(構成/石州半紙、本美濃紙、細川紙)
平成28年(2016年)	「山・鉾・屋台行事」(構成/京都祇園祭の山鉾行事、日立風流物など31件)
平成30年(2018年)	「来訪神:仮面・仮装の神々」(構成/飆島のトシドンなど10件)
令和2年(2020年)	「伝統建築工匠の技:木造建造物を受け継ぐための伝統技術」(構成/建造物修理・木工など17件)

## 「風流踊」のスケジュールについて

令和2年(2020年)3月末	ユネスコ事務局へ提案書を提出
令和3年(2021年)3月末	ユネスコ事務局へ提案書を再提出
令和4年(2022年)10月末~11月上旬頃	評価機関による勧告
<b>令和4年11月28日~12月3日</b>	<b>第17回政府間委員会での審議・決定</b>
令和5年(2023年)5~6月(予定)	認定証伝達(予定) ※文化庁と調整、全風連総会に合わせて実施検討中

## 補助金について

文化庁ではユネスコ無形文化遺産に登録させたものに対して、補助金により支援を行っております。

補助金の詳細は以下のとおりです。(令和4年度予算に関して記載しております。)

名称:地域文化財総合活用推進事業(ユネスコ無形文化遺産)

事業概要:「ユネスコ無形文化遺産」に登録された地域において行われる普及啓発・人材育成・調査研究等の取組に対して支援し、ユネスコ無形文化遺産を活用した地域活性化を推進

取組内容:情報発信・普及啓発・人材育成・保護活動等の取組を支援

(例)ユネスコ無形文化遺産に関するパネル展の開催、普及啓発のためのパンフレット作成等

※本件について詳細は文化庁 HP を御参照ください。

## ユネスコ無形文化遺産へ登録されることの効果について

### 期待される効果

既にユネスコ無形文化遺産に登録されている無形文化遺産の所在市町村に聞き取りを実施した際に挙げられた意見等は以下のとおりです。

#### ・保存体制の強化

以前は複数の保存団体がそれぞれ活動していたが、代表一覧表への記載を契機に全体を統括する保存会が成立し、団体間の交流・協力が進んだ。

#### ・学校教育での活用

学校教育(小学校の総合学習等)において、芸能についての授業が組まれるようになり、地域の将来を担う子どもたちへの普及啓発が促進された。

#### ・公演招待の増加

芸能関係の大会に招待される機会が増えた。(全国神楽大会など)

ユネスコ無形文化遺産登録を契機とし、保存継承にどのように生かしていくかは正会員である担い手の皆様や特別会員である地方自治体の取組次第で、非常に有効な手段とすることができると考えております。本連合会の活動としては、あくまでも保存継承を一番の目標としておりますので、登録後より一層、正会員・特別会員の皆様と連携していく所存です。引き続き本連合会の活動へのご理解・ご協力を何卒宜しくお願い致します。

# 令和3年度全国民俗芸能「風流」保存・振興連合会新規会員のご紹介

## かのみず かけおどり 寒水の掛踊 (寒水掛踊保存会)【岐阜県郡上市】



郡上市明宝寒水に伝承される風流の太鼓踊で、毎年9月第二日曜日とその前日の、寒水白山神社の例祭で奉納される。両日も、中桁という屋号の家の前庭での「中桁前の踊り」、神社境内での「お庭踊り」、「拝殿前の踊り」の計3回が踊られる。役者が踊りの庭に練り込むと、反時計回りに回りながら、拍子打ちは庭の中央に、それ以外の者は拍子打ちを取り囲む大きな輪を作る。踊りの曲は、拍子打ちの太鼓と鉦を聞かせる「歌頭」、踊り歌を聞かせる部分、再び拍子打ちの演奏を聞かせる「打ち上げ」の三部構成となっている。その芸態に美濃地方、さらには近畿圏に多く伝承される風流の太鼓踊にみられる特色をよく伝えている。

## つしま ぼんおどり 対馬の盆踊 (対馬盆踊保存連合会)【長崎県対馬市】



毎年8月のお盆の頃に寺社や初盆の家、墓地などで奉納される先祖供養の踊りである。その起源は15世紀まで遡るとされ、藩士たちが踊る御卯塔風流と特権商人たちによる六十人踊、この2つが各地域で融合しながら現代まで伝承されたものと言われている。踊りは、二列縦隊を基本隊形とし、扇子踊や手踊で国や主君の繁栄を祈念する「祝言」を含む複数の演目で構成される。扇の扱いや手足の動きに独特の所作が見られ、伝承曲も地域によって異なり、綾竹・笠などの道具を使う採り物踊や演劇的に構成された仕組踊などがある。

## のはらはちまんぐうふうりゅう 野原八幡宮風流 (風流節頭保存会)【熊本県荒尾市】



熊本県荒尾市の菰屋・野原・川登(写真左からの順)の3地区にそれぞれ伝わる稚児による太鼓踊で、毎年10月15日に行われる野原八幡宮大祭の中で節頭行事と共に奉納される。

打手と称する二人の稚児が大太鼓・小太鼓を担当し、6年間打手を務めた後は師匠となり、新しい打手を指導する。

奉納当日、稚児は早朝に川で禊をし、打込と称して各公民館で一踊りした後に野原八幡宮へと向かい、境内の所定の場所で順番に風流を演じていく。

稚児が被る笠は獅子頭に見立てたもので、笠切と称して各地区の人たちが毎年新調する。

### 正会員一覧

都府県	市町村	民俗芸能名	保存団体名
岩手県	盛岡市	永井の大念仏剣舞	永井大念仏剣舞保存会
	北上市・奥州市	鬼剣舞	鬼剣舞保存会
秋田県	雄勝郡羽後町	西馬音内の盆踊	西馬音内盆踊保存会
	鹿角市	毛馬内の盆踊	毛馬内盆踊保存会
東京都	西多摩郡奥多摩町	小河内の鹿島踊	小河内の鹿島踊保存会
	新島村	新島の大踊	新島大踊保存会 若郷大踊保存会 お峯入り保存会
神奈川県	足柄上郡山北町	山北のお峰入り	お峯入り保存会
新潟県	柏崎市	綾子舞	柏崎市綾子舞保存振興会
	魚沼市	大の阪	大の阪の会
山梨県	上野原市	無生野の大念仏	無生野大念仏保存会
長野県	下伊那郡阿南町	新野の盆踊	新野高原盆踊りの会
	佐久市	和合の念仏踊 跡部の踊り念仏	和合念仏踊保存会 跡部踊り念仏保存会
岐阜県	郡上市	郡上踊 寒水の掛踊	郡上踊り保存会 寒水掛踊保存会
	静岡県	榛原郡川根本町	川根本町徳山古典芸能保存会
静岡県	静岡市	有東木の盆踊	有東木芸能保存会
	愛知県	豊田市	綾渡の夜念仏と盆踊
三重県	伊賀市	勝手神社の神事踊	勝手神社神事踊保存会
	草津市	近江湖南のサンヤレ踊り	草津のサンヤレ踊り保存協議会
滋賀県	栗東市		小杖祭り保存会
	守山市、甲賀市、東近江市、蒲生郡竜王町	近江のケンケト祭り長刀振り	近江のケンケト祭り長刀振り連合保存会
京都府	京都市	京都の六斎念仏 やすらい花 久多の花笠踊	京都六斎念仏保存団体連合会 やすらい踊保存団体連合会 久多花笠踊保存会
兵庫県	南あわじ市	阿万の風流大踊小踊	阿万風流踊保存会
奈良県	吉野郡十津川村	十津川村の大踊	十津川村小原・武蔵・西川大踊保存会
鳥根県	鹿足郡津和野町	津和野弥栄神社の鷺舞	弥栄神社の鷺舞保存会
岡山県	笠岡市	白石踊	白石踊会
徳島県	真庭市	大宮踊	大宮踊保存会
	三好市	西祖谷の神代踊	西祖谷神代踊保存会
香川県	仲多度郡まんのう町	綾子踊	佐文綾子踊保存会
福岡県	綾歌郡綾川町	滝宮の念仏踊	滝宮念仏踊保存会
	豊前市	感応楽	豊前感応楽保存会
長崎県	大村市	大村の郡三踊	黒丸踊保存会 沖田踊保存会
	対馬市	対馬の盆踊	対馬盆踊保存連合会
熊本県	荒尾市	野原八幡宮風流	風流節頭保存会
大分県	国東市	吉弘楽	吉弘楽保存会
宮崎県	西臼杵郡五ヶ瀬町	五ヶ瀬の荒踊	荒踊保存会